

表彰エントリー資料

【ビューポイント・景観部門】

- ・のしろ白神の道 …… 1

【滞留拠点部門】

- ・のしろ白神の道 …… 3
- ・桑折宿まちなか街道 …… 5
- ・城下町あいづ道草街道 …… 7
- ・黄花紅の東むつ湾ルート …… 9

【広報PR部門】

- ・のしろ白神の道 …… 11

【協議会特別部門】

- ・のしろ白神の道 …… 13
- ・ふくしま浜街道ハッピーロード …… 15
- ・出羽の古道 六十里越街道 …… 17

ルート名:のしろ白神の道

取り組み名称:木の香る道づくり

1. 取り組みの概要

・能代市中心部の沿道の魅力向上の取組として、国道7号沿線の延長1.5kmにわたって植栽されている黒松街道の「150本の黒松」を年2回、VPS団体が剪定し、剪定技術者育成のため、講習会を年2回実施している。

・黒松街道沿いの一部をモデル地区とし、歩道と自転車道のウッドチップ舗装及び木質平板ブロック舗装の試験施工を行い、当該箇所において市民参加型イベント「のしろまち灯り」を開催。「道」を含め一体的にイベント空間を創出し、秋田スギを活用したまちづくりを広く提案している。

また、今年度は国交省事業の木の香る道づくり事業において、木材と鋼材によるハイブリッドのスノーポールや乱横断防止柵を設置し、秋田の材料と技術を活用した「木の香る道づくり」に取り組んでいる。

・能代市中心市街地・上町では、女性が中心となって地元高校園芸部より苗を購入し、秋田スギの集成材を使ったプランターや鉢カバーに植栽し、沿道の景観整備を行っている。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

・黒松並木を継続的に管理していくためには新たな剪定技術者の確保が必要であるため、VSP団体「黒松友の会」では、剪定会前に剪定講習会を開催するほか、道の駅にチラシを設置するなどPR活動を行っている。

・モデル地区として歩道部への木質材料の使用を実施・提案しているが、今後、県市道へ広く展開していくためには多くの市民の方々に認知・評価していただくほか、耐久性の確認が必要である。イベント時には継続的にアンケート調査を行うほか、耐久性試験等の実施も予定している。

・ハイブリッドのスノーポールや乱横断防止柵は、地場木材の活用推進もさることながら、材料入手、施工、維持管理、メンテナンスの容易性を重視し、異素材を組み合わせることで耐久性の向上をはかっている。国交省「木の香る道づくり事業」の一部において試験設置できたことで、秋田の材料と技術を活用した新たな歩道空間を具体的に整備・提案することができた。

3. 取り組みにより得られた成果

・黒松並木周辺に秋田スギを活用した能代らしい歩道空間の景観モデルを初めて整備することができた。

・昨年までの市民を対象とした調査では、ウッドチップ舗装及び木質平板ブロック舗装は「歩きやすい」「能代らしい」「冬でも滑らない」など高評価を得ている。

・業者ヒアリングでは、ハイブリッド乱横断防止柵の施工容易性が高評価を得ており、メンテナンス時においても同様の評価が期待される。

ルート名：のしろ白神の道

取り組み名称：滞留拠点「上町ほっとステーション」の活用

1. 取り組みの概要

能代市中心市街地・上町において空き店舗を格安に借り受け、内部にはイベント時に使用する秋田スギ製の扉やベンチを配置して活動拠点及び滞留拠点「上町ほっとステーション」を設置している。

市民参加型イベント「のしろまち灯り・冬」の開催拠点であるとともに、6月～11月までの毎週日曜日には「常盤ときめき隊朝市」が開かれている。10月には「まちなか美術館」の一会場として幼稚園や高校生の作品が5日あまり展示されているほか、能代宇宙イベント準備期間には、東海大学や秋田大学の学生達のロケット組み立て会場となっている。

また、上町すみれ会の活動拠点としても活用され、講習会や交流会に活用されている。

2. 取り組みの課題とその解決方法（又は取り組みの工夫点）

建物の管理上、シャッターの老朽化が課題となっているほか、子どもや高齢者の来場者に対して入口の段差を解消すること、「おもてなしの場」にふさわしい照明へ変更することが必要となってきている。

来年度以降、家主・上町すみれ会とともに話し合いを持ち、「木材と環境のまちづくり」拠点らしい内・外観に変更していく予定である。

3. 取り組みにより得られた成果

・多くのイベント拠点とすることで活動が認知されてきているほか、にぎわい創出につながっている。

・色々な市民参加型のイベントを開催することで町内の人通りが増えることが商店主にも認知され始めている。

・朝市やまちなか美術館は中心市街地に住む高齢者の楽しみとなってきている。

ルート名：桑折宿まちなか街道

取り組み名称：店蔵を活用したおもてなしの心

1. 取り組みの概要

明治時代半ばに建てられた店蔵を活用し、平成19年5月におもてなし処「桑折御蔵」をオープンし、桑折宿来訪者への歴史・文化・観光の案内やおもてなしをするなど、情報発信と交流の場を提供している。スタッフは、婦人会や商工会女性部、交通安全母の会等で組織する女性団体連絡協議会の中から、100名ほどの会員が無償ボランティアで当番制で運営し、来訪者との交流を図っている。また、各種団体が実施するイベントにも積極的に参画しており、特に「竹灯籠まつり」「桑折宿雛めぐり」では、その中心的な役割を果たし、女性の視点からあらゆる趣向を凝らし、イベントを盛り上げている。今年は、仮設住宅に避難している浪江町の女性にも声をかけ、「つるし雛」の製作を共同で行うなど、積極的な交流も図っている。食文化の継承や体に優しい食品の販売なども行っており、特に昔から地元で食されていた小麦粉の団子と地元産の野菜を使った「桑折さんちのだんご汁」を販売するなど食文化についても発信している。温かいおもてなしにより来訪者からも大変感謝され、「桑折町の顔」また「まちの駅」的存在となっている。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

スタッフの高齢化により、活動も無理をしない方法で行っている。御蔵の活動を引き継いでくれる後継者の確保が課題となっているが、最近では、御蔵の活動に共感を持つ町外の方の申し出も出てきており、今後も門戸を開いて後継者の確保・育成を図る。

3. 取り組みにより得られた成果

御蔵の活動が多くのマスメディアで紹介され、桑折宿の認知度がアップし、来訪者の数が増えた。また、町内の女性も来館し、この場で町政等の話が話題となり、町政に対する関心度を深め、行政の場等に積極的に参画するようになり、男女共同参画社会の先駆町として女性パワーのアップにも貢献している。

活動の参考となる写真などを貼付



交流している東京都荒川区で桑折町産品を販売



「桑折宿雛めぐり」で町内の幼稚園児と交流



浪江町民と「つるし雛」を共同製作

※資料はA4で最大2枚までとします。

ルート名：城下町あいづ道草街道

取り組み名称：滞留拠点活用事業

1. 取り組みの概要

東京大学堀繁教授から七日町通り(国道252号)商店街には滞留拠点が無い、と指摘されていたパートナーシップの七日町通りまちなみ協議会では、平成22年3月に駐車場(大型バス4台・乗用車15台収容)機能を有した「七日町浪漫デッキ」を設置した。昨年10月15日には商業高校生徒と「まち歩きスイーツ委員会」の連携によるまち歩きスイーツとオープンカフェを実施した。

また、昨年7月に開通した市道インター南部幹線(七日町けやき通り)を利用して「七日町フェスタ」を開催するなど、道路空間を賑わいやおもてなし、くつろぎの創出に活用している。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

イベントを開催するときにもいつも苦慮するのは資金と人員の確保である。また、イベントは一過性のもので持続可能なまちづくりを視野に入れた場合、過剰にイベントに寄り掛かり、期待することは避けたいが、一過性であっても集客により商店街の元気さを体感してもらえればそれなりの効果はある。

ただ、当事者の中には「イベント疲れ」という現象も見られ、イベントが目的化してしまうこともあるので、長い目でまちづくりを捉える視点を共有することが大切だと思っている。

3. 取り組みにより得られた成果

滞留拠点である「七日町浪漫デッキ」を設置してから2年になるが、駐車場収益もさることながら、パラソルの下のイスやテーブルを利用して一休みを楽しむ人が多く見られ、旅行者や高齢者に好評を博している。とくに旅行者の滞留時間が長ければ長いほど、商店街で飲食や買物をする機会も多くなり、商店街の活性化につながる効果が見られてきた。

活動の参考となる写真などを貼付



まち歩きスイーツオープンカフェで賑わう七日町浪漫デッキ。後ろは駐車場。



七日町通りまちなみ協議会では道路を車両通行止めにしてのイベントを年数回開いている。

※資料はA4で最大2枚までとします。

ルート名:黄花紅の東むつ湾ルート

取り組み名称:立体花壇の製作と設置

1. 取り組みの概要

日時：2011年4月9日～6月20日
場所：①国道279号道の駅ヨコハマ交差点付近
②JR陸奥横浜駅構内
概要：①高さ2メートルの四角柱で合計224株の花で構成されている。
②高さ1.1メートルの四角柱で合計112株の花で構成されている。
※毎年5月は横浜町で黄色い菜の花が咲きます。
東北では珍しい立体花壇を主要な場所に設置することで、訪れる観光客に足を止めていただき、菜の花の開花している期間、楽しんでいただく目的で活動しました。
また、今年は3.11の東日本大震災からの復興を祈願し「がんばろう東北」と4カ所の柱に掲示しました。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

課題：立体花壇への水の供給
現行は1日2回朝と夕方に現場まで水を運び、人力で水やりを行っている。販売されている高さ2メートルの既存の立体花壇は、自動給水装置付きで1基150万円の費用がかかる。現在、予算もないので、簡易的にできる方法を検討中です。
半自動の給水装置があれば紹介してほしい。

3. 取り組みにより得られた成果

- ・立体花壇を設置した当初は4月初めで、横浜町で花が咲いているのが珍しく町内の方から声をかけられ好評でした。
- ・5月に入ると県内外から訪れる旅行者が多く、国道279号沿いの道の駅「よこはま」やJR陸奥横浜駅に足をとめて頂く機会が多くなりました。

活動の参考となる写真などを貼付



国道279号道の駅ヨコハマ交差点前



JR陸奥横浜駅構内

立体花壇製作・設置



立体花壇の基礎となる柱の設置



224個の花を取り付ける



「がんばろう東北」復興祈願



1日2回の水やり作業

※資料はA4で最大2枚までとします。

ルート名：のしろ白神の道

取り組み名称： 広報・イベントPR

1. 取り組みの概要

のしろ白神の道ではHPを開設しており、季節ごとに色味を変更して四季の豊かさをアピールしながらイベント告知や活動紹介等を随時行っている。活動紹介は「活動レポート」として、その都度のできごとを関係者が書いている。これらの情報は3年前まで閲覧できるようになっている。

また、のしろまち灯り開催時にはNEXCO東日本秋田支社の協力を得て、秋田道下りのPA、2箇所にもポスターを掲示していただいているほか、県内5箇所の道の駅にはポスターのほかチラシも設置して広報活動を行っている。

そのほか、能代市内での各種イベント(バスケットの能代カップ、日吉神社嫁見祭り、インターハイ、飛鳥Ⅱ来港)では主催者に協力し、木製ベンチ、テーブル、デッキ等の貸出や物販等を行い、NW活動を紹介するチラシの配布も実施している。

イベントの主催・共催に関わらず、民官学各ルートを活用してマスコミへの情報提供も積極的に行っている。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

・「活動レポート」は、書き手の個性により、多くの人に読んでもらえるよう、その都度のできごとを民官学の区別なくなるべく異なる関係者が書くようにしている。

・イベントPRにはなるべく経費がかからなくて済むよう、市や県の広報、NPO支援団体の広報誌を活用するほか、地元新聞社やテレビの取材を受けて情報を流してもらおうようつとめている。

・5色展開のロゴマークを作成し、ホームページやチラシ・名刺にも共通展開している。

3. 取り組みにより得られた成果

・HPを見たとの問い合わせが来るようになった。

・能代市内での各種イベント主催者から、参加協力依頼がくるようになってきた。

ルート名:のしろ白神の道

取り組み名称: 民学官の連携・交流・支援活動

1. 取り組みの概要

のしろ白神の道では、民学官の連携と協働がまちづくりには欠かせないとの認識から、定期的(偶数月の第2水曜日)に懇談会を開催し、情報交換やイベント開催に向けた話し合い、講師を招いての勉強会を行っている。

また、毎年度末にはまちづくり先進地等から講師を招いて公開で「のしろ市民まちづくりフォーラム」を開催し、民学官によるまちづくりを多くの人と共に考える場を設けている。

これらをふまえ、イベントなどではそれぞれ得意分野の知恵や力を出し合い、木材と環境のまちづくり、おもてなしのまちづくりなどに様々な視点を取り入れている。

加えて、NW構成団体以外の個々に活動している多種多様なグループにも随時参加していただき、「緩やかなつながり」づくりも積極的に進めている。

また、風景街道活動を通じて交流のある会津若松の団体が、東日本大震災による風評被害に苦しんでいたことから、各種イベントで、会津若松の特産品の販売を実施した。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

・活動の裾野を広げ、厚みをもたせるために信頼できる多様な団体との連携を推進。win-winの関係となるよう場の設定には配慮する。

・イベント時の会場設営等の人数確保が課題であり、継続的に実施していくためにはボランティア募集等による人数確保を検討する必要がある。

・主催事業費確保のため、協力団体の支援金持ち寄りの検討

・継続的な支援活動を実施するため、実施内容や販売品目等の検討

3. 取り組みにより得られた成果

・懇談会やさまざまな活動を通じNW内の連携が強くなっているのはもちろんのこと、主催イベントである「のしろまち灯り」は、NW以外の地元商店会等年々参画団体が増加し、地域のイベントとして定着しつつある。

・勉強会やフォーラムなどの活動を通じ、他団体とは良好な関係が構築されてきており、その縁から東日本大震災で風評被害で苦しむ会津若松の名品を6-11月の朝市やイベントで販売し、支援活動に取り組むことができた。



ベンチ(のしろまち灯り夏)



田楽、スギあかり(のしろまち灯り夏)



嫁見まつり(ベンチ・テーブル)



屋根付きスギへい(のしろまち灯り冬)



嫁見まつり(支援品販売の様子)



秋田魁新報23年 5月17日(水)19面



日頃から市政発展のため、ご尽力を賜り、誠にありがとうございます。
さて、このたびご寄贈いただきました金員は、東日本大震災における救援のために活用させていただきます。
～芳志のほど心から厚く御礼申し上げます。
平成二十三年五月二十五日
会津若松市長 **菅家一彰**
のしろ白神ネットワーク(日本風景街道)
会長 能登 祐子 様

お礼状

※資料はA4で最大2枚までとします。

ルート名：ふくしま浜街道ハッピーロード

取り組み名称：みんなでやっぺ!!きれいな6国

1. 取り組みの概要

・福島県双葉郡広野町～相馬郡新地町間の国道、県道約170km(6号国道約100km)にわたり6号国道沿線中学生、高校生を主体に清掃活動を実施しています。ふくしま浜街道ハッピーロードの特徴は、国道6号を主軸とした沿線12市町村で構成されており、街道総延長230kmに及び、地域の資源も様々な沿道を形成しています。
平成19年8月4日地域高校生の立案により『みんなでやっぺ!!きれいな6国』(やっぺ：実行しましょうの方言。6国：国道6号の略)を合い言葉に、国道6号広野町～新地町沿線約33kmを10区間で始まり、現在まで4回開催され、相双地方の中学・高校生を主体に青年会議所、商工会、PTA、行政機関から約2,000人規模まで拡大しました。『美しい古里へ心一つ』をスローガンに年々参加者も増加し、地域ぐるみの活動に発展してきました。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

・規模が拡大し、約2,200名が一斉に清掃活動を行うことで、各地区の主体となるリーダーとなる人員確保が課題となっている。また、今後は、各市町村道、県道にも徐々に拡大してきており、地域ぐるみの行事として定着しつつあるため、実行委員会等の組織見直しも必要となっている。

3. 取り組みにより得られた成果

・地域の子供たちが、日常何気なく利用している道路に対して、愛着を持ち、道路を大切に作る心を形成する一翼を担っている。また、道路沿線の景観形成を作る上での基礎啓蒙思想の育成にも役立っている。

ルート名：出羽の古道 六十里越街道

取り組み名称：街道を活用した総合的地域振興活動

1. 取り組みの概要

本街道を活用した地域振興事業は、商工会事業者有志が研究会を立ち上げ、地元住民の参加、行政、観光協会との密接な連携のもとに成長してきた。

特に保全・調査活動にあたっては県内各地からボランティアの協力を得、平成17年の市町村合併以後は市全体から研究会へ加入する仲間、街道を案内する山船頭人も増加傾向に有る。応援団組織のアルゴディア苦楽歩(くらぶ)は地域を越えて仲間の輪が広がりにつつある。

また、隣接する西川町とも「出羽の古道・六十里越街道会議」を設立し、日本風景街道の登録を受け、街道整備・会議・フォーラム・情報交換等を密接に行っている。

更に、平成21年からは街道沿線3市2町で「街道でつながる広域連携・交流促進プロジェクト」の元にフォーラムや広域連携祭などを実施し自治体を越えた取り組みに発展している。同時に、学習会の開催、観光事業者による活用会議、応援団組織のアルゴディア苦楽歩(くらぶ)などの活動を通して、広く研究会の人材育成に取り組み、山船頭人(ガイド)等として育成されている。特に街道沿線の住民の参画を促進し、新たに街道まつりや地域住民との懇談会の開催など地域に根ざした活動を展開している。

研究会の発足時の約束事として百年継続する活動を合言葉に、保全・調査活動のみならず、文化・観光・地域振興につながる活動を念頭に9年が経過している。現在、沿線地区の経済活動に結びつくための取り組み、環境整備、受入れシステムの確立はもちろん歴史街道を中心にした地域づくりを推進するための組織としての役割も果たしている。

単に街道を歩くだけでなく、ブランド化した「食」の企画とタイアップ、地元観光事業者オリジナルの企画、そして「再生の山」の象徴としての湯殿山と六十里越街道の「六十」に因み、還暦世代の六十を融合した「六十の詣で」を企画し実施している。かつて道者で賑わった歩いての御山参りの再現を「おゆずり」、「金剛杖」、「菅笠」等を取り入れて実施している。

さらに、当街道には埋もれた史跡が多く残っているため、その再生・発掘の活動も行っている。また、できる限り研究会の事業や連携事業をマスコミ報道、地元ケーブルTVでの紹介も積極的に行っている。加えて、オフシーズンの冬期間を利用し歴史街道に関する学習会や地元住民との懇談会を開催し、会員の資質向上と歴史街道の啓発活動にも取り組んでいる。

2. 取り組みの課題とその解決方法(又は取り組みの工夫点)

この取組みに参画する20代から30代の若い世代の人材が育成されていないことから、今後、積極的な参加活動を行っていく必要がある。このため今年度から、若い世代が参加したくなる魅力あるイベントとして六十里越街道をコースにトレイルランを初めて開催した。PR期間も短かったこともあって参加者が6名と少なかったが、応援団も含め確実に若者に六十里越街道の魅力が伝わったと確信している。

3. 取り組みにより得られた成果

1.本研究会がスタートしてから9年が経過し、長年休眠状態にあった六十里越街道に関しての研究及び開発が進み、本格的に体験型観光事業を展開する上での土台が構築され、地域振興の柱としての誘客及びハード整備等着実にその成果が現れている。

2.まったく無名の歴史街道が脚光を浴び、街道沿線のみならず、広域での観光振興及び地域振興につながるネットワークが構築され、広域圏で取り組む新たな地域振興のキーワードとして認知されてきた。

3.街道マップ、ホームページ、紹介DVD、街道手帳、保全ポスター、パンフレット等の情報ツールが整備され、誘客活動する上で広く活用されている。



(説明)

平成 23 年 7 月 21 日 (木)

史跡研究部会活動

石塔調査 (細越峠)

石碑に刻み込まれた文字を読み
とる為の作業。

参加者 6 名



(説明)

平成 23 年 6 月 11 日 (土)

街道整備部会活動

ブナの枝折れの撤去作業

腐食していたブナの大きな枝
が大雪により折れて街道をふ
さいだため、撤去している。

参加者 11 名



(説明)

平成 23 年 9 月 21 日

資料収集部会活動

関谷地区の六十里越街道に詳し
い方 (2 人) から街道に関わる
人々の暮らしなどについて聞き
取りを行う。

参加者 7 名



(説明)

平成 23 年 5 月 28 日 (土)

六十里越街道トレッキング

～新緑の六十里越街道を歩く～

ブナの新緑を楽しみながら歩

き、トレッキング終了後は、「さ

と山春の御膳」で、お腹も満足。

参加者 21 名



(説明)

平成 23 年 5 月 21 日 (土)

第 4 回六十里越街道安全祈願祭

六十里越街道トレッキングの安

全を祈願し、多層民家 (田麦俣)

周辺で安全祈願を行う。

祈願の後、ミニトレッキングを

行う。

参加者 36 名



(説明)

平成 23 年 5 月 13 日 (金)

アルゴディア研究会総会

参加者 14 名